

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・中土佐町地域公共網形成計画を平成31年3月に策定し、関係各所に計画書を配布し課題と取組みの共有を行った。
- ・地域公共交通会議を令和元年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持・再編について協議を行った。
- ・平成30年に実施した久礼地区の再編と合わせ、地域公共交通網形成計画の具体的施策に準ずるかたちで説明会を継続的に実施している。さらに、公共交通の空白地区として地区から要望が出されている上ノ加江地区における新たな路線の実現に向けて検討作業に取り組んでいる。

自己評価

事業実施の適切性

- ・平成30年10月1日運行からの久礼地区の路線再編の実施直後は、ダイヤ及び経路の変更についての戸惑いの声もあったがその後落ち着き、一定の利用数を確保することが出来ている。また、JR及び幹線系統との接続ダイヤを見直し、利便性の向上を図ることができた。
- ・路線再編後も目標値を下回っている路線があるものの、一定の利用が確認できた。全体的には前年度に比べて利用者が減少しており引き続き利用促進の取組みは必要。
- ・高齢者の買い物・通院等への移動手段として機能した。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・系統 ⑪川崎・萩原線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に対し70%に達しておらず利用が少ない状況にある。
 - ・系統 ⑫高樋線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に対し70%以上の利用率を確保できている。
 - ・系統 ⑬長沢・大坂線、⑭下ル川線、⑮萩中線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に対し90%以上の利用率を確保できている。
 - ・系統 ⑯楠ノ川線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に対し150%以上の利用率を確保できている。
- ・路線の再編を実施したことにより、昨年度に比べて利用率は向上した。1系統を除いた全ての系統において目標値に達していないものの、おおむね目標値と同等な路線が3系統あり、再編の効果が出たことと思われる。しかしながら依然として利用が伸びない路線も存在している。住民の移動手段となる公共交通を維持するために、今後も引き続きバス乗り方教室の開催やコミュニティバスの説明会など利用促進の取組みを進めていく。

今後の事業に向けた改善点

コミュニティバスの路線再編を行ったことにより、路線維持のための一定の利用の確保は実現した。しかし、依然として利用が伸び悩んでいる路線や全体的な利用者の減少など、公共交通の維持に向けた新たな利用者の掘り起こしが引き続きの課題となっている。

平成31年3月に中土佐町地域公共交通網形成計画を策定した。公共交通の利用促進に向けた広報や地域ヒアリング等を引き続き実施し、高齢化が進む本町の移動手段を確保し、安心安全な地域生活を守る地域公共交通を目指す。

その他PRポイント

以前から移動手段の検討要望のあった公共交通空白地区である上ノ加江地区において、新たなコミュニティバス路線の検討を行っている。住民説明会も開催し、令和2年4月からの実証運行を予定している。